

新しい年度を迎え各PJ続々と始動 —M1を伴いまず現地へ—

**Projects Begin: Project activities have begun
& the new participants have been out into the field.**

text_nakashima

今年度も各PJが続々とその活動を開始しました。今月は佐原、高山、神楽坂とM1にとって初の現地訪問が続きました。2つ以上のPJを掛け持つM1も多く、来月も忙しい月となりそうです。



佐原

Sawara

text_suzuki

2009年度の佐原PJはM1大熊、桜庭、鈴木の名が加わり、新チームで活動を始めました。4月24、25日に佐原を訪ね、まちづくりを行っている各団体の方のお話を聞いた後に、歩いて佐原という町を体感しました。2日目は激しい雨の中の町歩きでしたが、調査というよりは、観光しながら町の人と触れ合うことが目的であったので、ビショビショに濡れたものの、楽しくお話が聞けて有意義な時間でした。と同時に、まちづくりの構造の複雑さも感じました。また、重伝建の他にも、香取神宮、観福寺といった佐原の魅力を感じることができ、大熊のものもらいが悪化するというハプニングはありましたが、M1の3人とも今後の活動を楽しみにしています。

高山プロジェクト新メンバーは、春の高山祭りを目指すべく、初！訪高してきました。大切に代々受け継がれてきた屋台の迫力、宮川沿いの満開の桜は、高山の春を肌で感じさせてくれました。また、重要文化財吉島家住宅での建築家であるご主人とカリフォルニアの彫刻・陶芸の教授との出会いは、私たちの宝ものとなりました。今後は、広域的な視野で、空間的、時間的に、さらに奥行きのある高山を再認識していきたいと思えます。高山のハレとケ、そして境界を垣間見ることができた、濃い2日間でした。

高山

Takayama

text_sakuraba



神楽坂

Kagurazaka

昨年度、『新宿区景観まちづくりガイドブック』発行をきっかけに、笹塚地区担当メンバー(D中島・旧M2大道・矢原)は、神楽坂でのまちづくりルール策定に関する議論に参加することができました。今年度は、本格的にプロジェクトという形で始動、窪田先生、D中島、鈴木、松井、傅、M2菊地原、M1神原、永野、研究生高橋というメンバーで、引き続き地元の議論に加わりながら、そのベースとなる調査や提案等を行なっていく予定です。 D3 鈴木智香子

各PJの現地訪問予定と参加者

鞆の浦

6月中 調査
M2西川, 六田 M1安部, 神原

足助

5月下旬 調査
M2西川, 六田 新メンバー募集中!

浅草

5月4日 まち歩き
M2佐藤 M1永野, 鈴木, 熊谷

続・新メンバー紹介 研究員・研究生編 Introduction of new members

岡本 祐輝 (Okamoto Yuki) 特任研究委員(先端技術研究センター所属)



私の生活の一部であるプロサッカークラブの今年のスローガンは『Devotion to URAWA』。4年間、地元のコンサルで働いてました、地域に根ざした「何か」を生み出したくて。ただ、無力感もしばしば。結局「つもり」に過ぎなかったのか。ときに、なぜ今なお私は都市計画・都市デザインに身を置くのか。そりゃ私も、胸を張って何かに対して「Devotion」したいさ。さてと、かつての青臭かっただけの青臭さを、ちゃんと自分の中で消化し、世に昇華させねばならん時がいよいよ来たのだ。なんてね。とりえず、現在かかわらせていただいている湯布院の景観まちづくり等、はい、頑張ります。よろしくお願ひします。



李 蕃 (Li Fan)

出身:北京 清華大学

学部生のとき、専攻は建築でした。今度は都市計画の研究生として、日本の町に関するの新しいことを色々勉強したいです。日本の生活の面白いことも知りたいです。本を読む、博物館に行くことが好きですから、皆さんのおすすめても知りたいです。(本は難しいですけど、頑張ってます。)そして、出身地の北京の面白いことを皆さんに伝えたい、皆さんに北京と中国が好きになって欲しいです。これからよろしくお願ひします。



王 新衡 (Wang Sin Heng)

出身:台北 台北科技大学, 雲林科技大学

台湾では台北科技大学と雲林科技大学で勉強していました。主に土木、環境と文化財などを専攻していました。2003年に卒業した後、兵役を終えてから、建築研究所と故宮博物館で働いていました。台湾で日本統治時代の伝統的な建物を研究し始めたのが日本に留学しようと思ったきっかけになりました。これから研究室の活動に参加して、近代遺産の保存と活用について研究して、博士課程への勉強を行おうと思っています。

駒場リサーチキャンパスの「あらたな」展開

In this spring, Four students have moved from Hongo to Komaba. Here is a report on their everyday lives.

text_nakashima

今春、当研究室のメンバーの一部が先端科学研究センター（駒場リサーチキャンパス内）に移動しました。周知のとおり研究室メンバー増加に対し、14号館2階院生室を明け渡す決定が下り、席数が足りなくなったためです。「駒場の今」をお伝えします。



昼食会での歓談

4月22日キャンパス内のレストランにて昼食会があると伝え聞き早速取材を申し込みました。西村先生の提案により実現した会で、遠藤先生や野原さん、岡本さんをはじめ、修士・博士課程の院生まで全員参加という珍しい会でした。メンバーへの、駒場はどうか？という問いに対して、「机が広く本棚が充実している」「必要なOA機器は揃っている」といった設備の面での充実や、「採光が良い」「周囲が静か（よく鳥が鳴いているのだとか）」など環境面でも好感触を得ました。また「自由に使えるグラウンドがある」「無料で利用できるコーヒーラウンジがある」「2階にシャワールームがある」「日替わり月替わりで移動屋台がやってくる」といった駒場ならではの利点もありそうです。一方で、「学食のメニューが貧弱な上に値段が高い」「生協の書籍や図書館の取り扱いが少ない」という声も既に取り上げました。しかしこういった不便があるとしても、博士課程や社会人大学院生が過半を占める落ち着いた雰囲気の中に、少しずつ駒場の気風が育まれているのを感じられました。「駒場には志高い人が来た」一昼食会のはじめに西村先生が笑顔でおっしゃった言葉が非常に印象的でした。この会は今後も続けてゆきたいとのこと（関係者談）



広々とした個人スペース



隣接するサッカーグラウンド（奥に見えるのは生産技術研究所）



自由に使えるというラウンジ

西村研究室 （先端技術研究センター）

1987年：
先端科学技術研究センター発足
2008年4月：
西村幸夫教授 先端研教授に就任
2008年6/24：
遠藤先生講義開催
リース先生最終講義開催
2009年3/12：
中島助教より駒場移動問題提起
2009年4/3：
本郷・駒場の使い方に関するMTG
2階メンバーが移動への意思を表明
したことで劇的決着
2009年4月上旬移動完了
現在駒場には10人強のメンバーが通う

国際設計演習（難波・石川スタジオ） 研究室より5名参加

International Design Studio (Prof. Nanba / Prof. Ishikawa) begins with Five students from our lab participating.

M1 熊谷俊一

火曜日午後にかけているスタジオ演習『都市と海』にM1大熊・熊谷・鈴木・永野とD1ナツポンの五名が参加しています。これは建築学科・難波和彦教授と都市工学科・石川幹子教授の共催演習で、6月まで中国・大連市を敷地に建築学科の12名と石川研や国際研などからの参加者と計30名程度で行われます。研究室の枠を超え色々な人達と交流できる貴重な場で、五月の現地でのworkshopと毎週火曜の定期プレゼンに備え日々PCと向かい合っている、そんな日々です。



編集後記

編集長殿の鼓舞空しく今回も発行が遅れました。とはいえ今号からすこしずつでも編集員の取材や観察を通した記事を増やしていきたい、そんな思いがあって編集も力が入っていたのは事実。次号からはM1編集者が担当します。彼らはきっとまくやってくれるでしょう。さて、前号につき今年度の目標を…、食生活改善、運動奨励ですね。最近隠れメタボになりつつある予感がするのです。自炊再開と…あとは水泳でめしよかな、と、ともかく今年度もよろしくお祈りします。

text_nakashima

マガジン編集部新年度 体制固まる

This year's magazine team and positions have been decided.

text_nakashima

マガジン編集部はM1から阿部、鈴木、桜庭、山下の4名を迎え、新体制がスタートしました。編集長にはM2菊地原が就任し、第一回編集会議では新メンバーへの実務説明、今後の方針決定、第100号の企画だしをしました。既にM1からも活発な意見が出ており、今後の活躍に期待がかかります。

発行5年目、100号を迎え次のステップへ

—2009年度研究室マガジン活動方針



都市デザイン研究室マガジン編集部 第五代編集長

菊地原 徹郎

発行5年目、積み重ねたマガジンの数も今年の6月で100号を迎えます。脈々と受け継がれてきた「理念」を継承しつつも、次のステップのマガジンを生み出すべく、3つの目標の下、発行を行います。

1. 編集部自ら取材を行い、主張ある記事づくりを行う
2. 定期発行を死守する
3. 留学生に向けてタイトルと要旨の英語併記を行う。

編集者自身が面白いと思える記事を目指し、1年間頑張ります。ご愛顧よろしくお祈りします。

都市デザイン研究室 5月の予定

5月1日	2009年度第二回読書会 アレックス・カー著「犬と鬼」
5月14日	第二回研究室会議
5月27日	都市空間の構想力MTG